命を守る防災教育

上士幌町立上士幌小学校　学級数 14　（校長　目黒　雅博）

Ⅰ　はじめに　「命を守る防災教育」

本校では、「命を守る」、「被害を軽減する」、「回復を助ける」などの力を育てる防災教育の充実に向けて、町の防災専門員、消防署の協力のもと、避難所開設（設置）訓練を実施した。

Ⅱ　実践の概要

１　目的

日常生活の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに、冷静な判断と迅速な避難をした後の避難所生活についての指導や実践の場とし、他の人々の安全にも気配りできるようにする。

２　想定・対象等

(1) 想定：十勝中部活断層直下型地震（活断層：居辺）、避難所への避難指示発令、上士幌小学校への避難

(2) 対象：第５学年、第６学年（第１～４学年は避難訓練等を実施）

(3) 講師：上士幌町防災専門員、上士幌町消防署、女性消防団（防災専門員との連携・協働体制で実施）

３　活動

○　災害について学ぶ（町防災専門員による講義と実技）
・災害の種類
・災害時の避難の仕方
・避難場所の確認　等

○　避難所開設実技
・２人１組でパーティションと簡易ベッドを設置

○　避難所開設実技
・簡易ベッドを椅子と机に作り替え、避難所食の試食

○　避難所開設実技
・冬を想定し、冬に使用する寝具を体験

まず、上士幌町防災専門員による講話を通して、災害の恐ろしさや災害時の避難の仕方等について学んだ。拡大した地図に自分の家があるところにシールを貼り、ハザードマップと照らし合わせる活動では、自分の家の災害に係る危険性を初めて認識する児童が多く、児童は真剣に講師の話を聞いていた。

次に、学校が避難所になったときを想定して、上士幌町防災専門員、上士幌町消防署員及び女性消防団員の協力のもと、パーティションの設営と簡易ベッドの設置を行った。パーティション及び簡易ベッドは上士幌町役場で災害時用に備蓄しているものである。そして設置したパーティションの中で、災害時用の避難所食の試食を通して、児童は実際にパーティションの中で生活するイメージをもつことができた。

児童からは「パーティションの中は思ったより広かった。」、「地震が来たときの避難所の暮らしが分かった。」という発表があり、体験を通して避難所についての深い学びの充実が図られた。

Ⅲ　成果と課題

○　専門家を講師として招いたことにより、専門性の高い知識を得ることができ、防災意識の向上を図ることができた。

○　避難所開設に係る体験を通して、被災時の対応及び避難所生活についての実践的な能力や態度を養うことができた。

●　児童の防災意識の高まりが継続するよう、計画的な防災に係る指導を行う必要がある。

●　地域住民が参加できなかったことから、地域の連携を高めた避難所訓練の実施する必要がある。